

# ADACHI

## 足立ってどんなまち？

基礎情報からユニーク施設やイベント情報まで  
足立区のコトまるわかり



## 特集 キータウン「千住」

生きるチカラを育てるまち  
心にゆとりが持てるまち

### 職員紹介



足立区役所に  
勤務する職員の  
働きぶりを  
紹介！



足立区 職員採用案内&区政要覧 2022 令和4年1月発行

発行/足立区 〒120-8510 東京都足立区中央本町1-17-1

編集/足立区 総務部 人事課 Tel/03-3880-5831 mail/jinji@city.adachi.tokyo.jp

写真協力/(一財)足立区観光交流協会、加藤有紀(フォトグラファー)

表紙/梅の湯(千住旭町) モデルは足立区職員

裏表紙/東京藝術大学(千住キャンパス)2年生

足立区職員採用情報 <https://www.city.adachi.tokyo.jp/jinji/ku/kuse/j-mezasu.html>

twitter/@adachi\_city facebook/<https://www.facebook.com/adachi.city>



リサイクル適性<sup>Ⓐ</sup>  
この印刷物は、印刷用の紙へ  
リサイクルできます。

千住にキャンパスのある東京藝術大学と足立区などが一緒に展開する  
まちなかアートプロジェクト「音まち千住の縁」が開く千住の文化サロン「仲町の家」。  
江戸時代に千住のまちづくりに携わった石出掃部介吉胤（いしでかものすけよしね）の  
ご子孫の家で、しばらく空き家となっていたが、今は、  
人と人、人とまち、人とアートをつなぐ拠点となっている。  
写真は仲町の家で活動する東京藝術大学（千住キャンパス）4年生



北千住駅すぐの  
飲み屋横丁



にぎわう商店街

若者がチャレンジするまち

# 新旧モザイクな 穴場タウン 千住

メディアでの露出が増え、このごろ話題の千住。  
荒川と隅田川に囲まれた島のようなまち、  
足立区のキータウンをのぞいてみよう。

センジョって知ってる？

このごろときどき耳にする「SENJO（センジョ）」とは「北千住女子」のことだ。  
SUUMO（スーモ）が調査する「住みたい街ランキング関東版」の「穴場だと思っ街ランキング」1位に7年連続で選ばれている北千住だが、その北千住を楽しむ女性たちが「センジョ」と呼ばれる。

2021年11月に、フジテレビの「めざましテレビ」で街頭調査したセンジョ67人

路地中の空き家だった民家をリノベーションしたカフェわかば堂（右手前）。今ではこの路地に軒ものリノベーション飲食店が建ち並ぶ



「カフェわかば堂」について「路地裏で家賃が安かったんです。立地が悪くても一度来店されたお客様が気に入れば必ずまた来てくださる。古い建物に興味を持つ若い世代が多いですね」と話す。古い建物の活用、リノベーションは新築とは違って、根拠も要るし難しさもあるが、家賃が抑えられることもあり、千住では、若い世代がチャレンジしている事例が多い。

10年以上空き家だった家を、飲食店やパティシエのいるシェアスペースにリノベーションした「せんつく」を運営する建築家の青木公隆さんは、アーティストやクリエイターと一緒に

空き家活用に  
取り組んできた。  
また、20年  
以上廃墟だったボーリング  
場と浴場跡が  
カフェを併設  
したアトス



シェアスペース「せんつく」と青木さん



昭和13年築の和洋折衷が印象的な板垣邸が、2020年、地元起業家の手で魅力的な和食店に生まれ変わった。写真は店長

アンケートでは、「北千住でよく行くところ」1位はマルイ・ルミネ、2位はカフェ、同3位は荒川の土手と居酒屋。カフェで特に人気なのが「古民家カフェ」との紹介だった。  
古民家カフェ、それも空間や飲食にこだわりのある店が路地の中に多いのが足立区千住エリアの特徴だ。  
背景には、江戸四宿のひとつ、千住宿として江戸時代からまちが栄えてきたこと、その後、明治、大正、昭和…それぞれの時代の建物や町割りが残るといふ千住の特徴がある。



江戸時代に江戸中から患者が訪れた「ほねつぎ」の名倉医院は、現在は整形外科に

## 若い世代が 古い建物を活用

千住に6軒のリノベーション系飲食店を展開する島川一樹さんは、最初に手がけた

ポット「BUOY」として再生されるなど、空き家や廃墟を活用したアトススポットも増え、千住は近年、アトファンにも人気のまちだ。  
かつては、千円でべろべろに酔えるいわゆる「せんべろ」のまちとも呼ばれ、飲み屋街や、にぎやかな商店街のイメージが強かった千住だが、5つの大学ができ、乗降客数日本6位といわれる一大ターミナルの利便性が功を奏し、



前衛的なアート展示や演劇が人気のBUOY。代表の岸本佳子さんと

近年は「親父のまち」に「若者のまち」のイメージが加わった。  
暮らしが息づくまちのなかに、「とき」が重なる風景は豊かだ。古いものも残しながら、恐れず新しいものを受け入れ変化してきたのは、人が行き交う宿場町だったDNAのなせる業かもしれない。



宿場町だった旧日光街道沿いに残る江戸時代の紙問屋、横山家

広い荒川土手の芝生で、お子さんと鬼ごっこで走り回る和田さん。  
お子さんものびのびと楽しそう



心にゆとりが持てるまち

# 川があること 緑があること

足立区は、区立の都市公園面積23区NO1。  
都心に近く便利なのに、水と緑が身近にあり、  
疲れた日には心癒してくれる場所がある。

足立区はタコさんすべり台発祥の地ともいわれ区内に11  
体の特色あるタコがいるほか、鬼、恐竜、ミニ列車など、  
ユニークな遊具が多い



## 水辺がいっぱい

「コロナのころには、デリバリーサービス  
を頼んだり、お弁当を持って行ったりし  
て、家族でゆっくり過ごしました。土手は  
空が広く、特に早朝の空は青くてすこく好  
き。遠くまで景色を見渡しながらのジョギ  
ングも気持ちいいです」（足立区で子育て  
中の和田真寛さん）。

都心に暮らすことは魅力だが、一方でス  
トレスと背中合わせ。忙しい日常の中で、  
身近に自然に触れられるのは貴重な。

足立区は四方を川に囲まれている。  
河川敷が広く、区民の憩いの場となっ  
ている荒川は実は大正時代から昭和初期にか  
けて、人の手で掘られた人工の川だ。今で  
は子育て世代や、ランニングやサイクリン  
グを楽しむ人たちにも親しまれる存在と  
なっている。荒川をふるさとの風景と言っ  
ても少なくない。また、さまざまな文学に

も登場する隅田川のほか、中川、綾瀬川、  
毛長川、圀川など河川が多い。水辺の散歩  
が身近で楽しめる親水緑道が多いのも魅力  
だ。

## 公園のまちあだち

また、区立の都市公園面積が東京23区  
NO1であるだけでなく、農業体験なども楽  
しめる都市農  
業公園、都立  
公園で23区3  
番目の広さを  
誇る舎人公  
園、細長く続  
き遊具や水辺  
なども充実し  
ている東綾瀬  
公園など、特  
色ある公園や  
大きな公園も魅力だ。「公園天国・あだ  
ち」と呼ぶ人もいるほど。



散歩が楽しい舎人公園

さらに、東京2020大会を機にスター  
トしたオランダ連携事業「Game Changer  
プロジェクト」が縁となり、バリアフリー対応の多  
目的スポーツ施設「スベシャルクライフ  
コート」もアジア圏で初めて設置された。  
足立区ではパークイノベーション担当課が  
中心となり、特色ある公園づくりを進める  
とともに、公園のインクルーシブ化にも  
チャレンジ中だ。

## あだちは桜のまち

もうひとつ注目したいのが、区の木でも  
ある「桜」だ。区内には、桜並木や桜を楽  
しめる公園が多い。多いだけでなくたくさ  
んの物語がまつまっている。

たとえば、荒川土手に植えられた約44キ  
ロの「あだち五色桜の散歩みち」。川風に  
吹かれながらのんびり歩いて約2時間。桜  
の時期はもちろん、緑の季節もとても気持  
ちがいい。明治時代に住民が育て、都内有  
数の桜の名所となった川辺の桜を、平成の  
時代に区民の寄付を募って復活させた。五  
色桜というのは、明治期に78種といわれる  
桜が植えられた色とりどりの土手を評した  
「五彩の雲が棚引く如し」という言葉から  
名づけられたという。

水と緑は足立の原風景であり現風景。に  
ぎわいと自然。住民の思いが支えてきた風  
景が足立にはある。



区民の寄付により植樹費用を負担する「ふるさと桜オーナー制度」により土手の桜並木が整備された

令和3年4月に花畑に開設された文教大学 東京あだちキャンパス。  
文教大学のキャッチコピーは「育ての、文教。」



足立区には、子どものためのユニークな体験施設がいろいろある。子ども時代ならではの、かけがえない体験の機会をたくさん提供する(17ページも参照)

### 6大学のまち

令和3年4月、足立区と埼玉県都県境に位置する花畑<sup>はなはた</sup>に文教大学東京あだちキャンパスがオープンした。千住エリアにある5つの大学と合わせ、足立区は専門分野の異なる6つの大学と一万七千人もの学生が通うまちになった。

若者の流入により活気が生まれ、まちの景色やイメージも変わったが、足立区が大学誘致に力を入れてきた大きな狙いはもう一つある。それは、「6つの大学とまちがつながる」こと。区民に開かれた講座やイベント、産学官連携など、各大学の特色を生かした連携が進んでいるのも足立区の特徴だ。

足立区の6大学連携のキャッチフレーズ

# 夢かなえよう。

with あだちの6大学

様々な連携を通じて、大学生は学校だけでは学べない経験をここ足立区で積んでいる。さら



足立区がNPO法人キッズドアの力を借りて運営する学習教室「Kids リビング global」。外国にルーツを持つ子どもたちの日本語学習のほか学校の授業のフォローも

に、足立区の子どもたちは大学を身近に感じること、夢や目標を持ち成長する。足立区に6つの大学があるメリットは限りなく大きい。

### 多様性のまち

家庭環境など、自分ではどうすることもできない生きづらさを抱える子どもたちがいる。足立区はその課題に全力で向き合う。



家庭環境の問題を抱える中高生のための居場所「アダチベース」。経済的な問題で学習や体験の差が生まれにくいよう、足立区がNPO法人カタリバに委託し、運営している

例えば、23区の中でも外国ルーツの人々が暮らす足立区。言葉の壁や習慣の違いで生きづらさを感じている外国ルーツの子どもたちの孤立を防ぎ、一人ひとりの可能性を引き出すため、区やNPOなどが連携し、学習支援や居場所づくりに力を入れている。

自国の文化に誇りを持ち、互いを理解し共に生きる。多様性を大事にする土壌は、人情深い下町文化で培われた足立区の魅力だ。誰一人取り残さないまちを目指して。



足立区の子どもたちは給食が大好き。「いただきます!」を元気いっぱいポーズしてもらった

人を大切に育てるまち

# 夢かなえよう。足立区で。生きるチカラを育てるまち

足立区の魅力は「人」にあり。ちょっとおせっかいで人情深い。足立区で暮らし、学び、働く人々…その一人ひとりが生き生きと自分らしく輝くために。人づくりは未来づくりだ。

### 給食が「おいしい」まち

足立区の子どもたちに学校の自慢を尋ねると、「給食がおいしい!」の答えが多く返ってくる。子どもたちの「絶対味覚」を育てるため、旬の食材や天然出汁にこだわりの、栄養バランス抜群の給食を提供するのが足立区が全国に先駆けて取り組んできた「おいしい給食」だ。各校の栄養士が工夫を凝らしたメニューがウェブ配信され、レシピ本まで出版されるなど、評判を呼んでいる。

足立区の「おいしい給食」は環境にもやさしい。小・中学校の総残菜量は、平成20年度の381トンから、令和2年度は94トンと4分の1以下にまで減少した。子ども自身が正しい食習慣と自分の健康を守る食に関する知識を身につける独自の取り組みが、足立区の子どもたちの未来を切り拓く。

# 治安が悪い?それは昔の話。

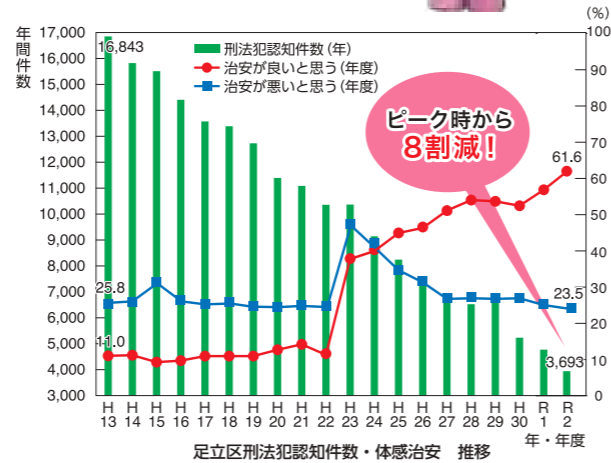
足立区では、防犯パトロールはもちろん、道路・公園の清掃、交通安全や花を育てることまで、「美しいまちは安全なまち」を合言葉に、足立区総ぐるみで取り組む「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を平成20年から展開。地域や警察などとの強力な連携が実を結び、ピーク時には16,843件もあった刑法犯認知件数は、令和2年には3,693件まで減少し、2年連続で戦後最少を更新している。

さらに、区民対象の世論調査でも、治安が「良いと思う」割合が61.6%と過去最高に。治安が悪いと感じる人との差も大きく広がっている。もう「危ないまち」とは言わせない。



「きれいなまちは犯罪が少ない」という割れ窓理論に基づいたビューティフル・ウィンドウズ運動

運動のキャラクター「ビュー坊」



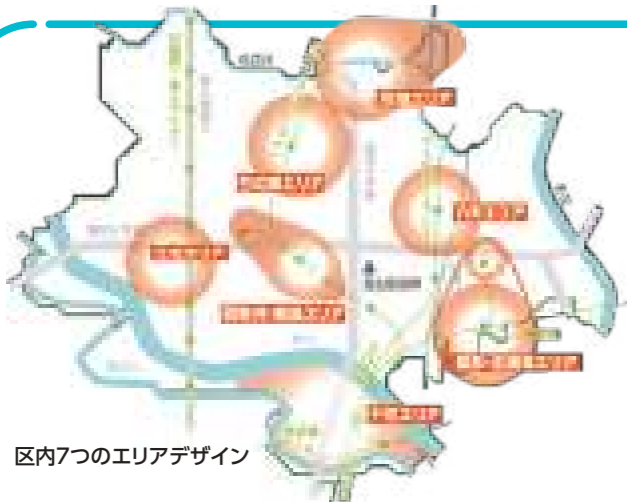
# 野菜を食べて、健康寿命を延ばすまち。

「なぜ足立区民の健康寿命は、都平均より約2歳短いのか」。このショッキングな問いかけは、平成25年度発行のあだち広報の一面を飾ったフレーズだ。かつて進めてきた総花的な健康対策から、区民一人当たりの医療費が23区内で最も高い糖尿病対策に絞って取り組んだ結果、5年後には、なんと健康寿命が、男性は1.13歳(都0.69歳)、女性は1.27歳(都0.47歳)伸びた。

今後は企業との連携による健康づくりをさらに深めて次のステージをめざす。住んでいるだけで、自ずと健康になるまち。それって夢じゃない。



「第6回 健康寿命をのばそう! アワード」で厚生労働省健康局長優良賞(自治体部門)を受賞



区内7つのエリアデザイン



東京女子医科大学附属足立医療センター



文教大学東京あだちキャンパス

# 100年に1度の変化のとき。

魅力的なまちの将来像を描き、民間活力の導入や区有地等を効果的に活用することでイメージアップをはかる足立区独自のまちづくりの手法「エリアデザイン」が進んでいる。今、大きく変化しているのが3つのエリアだ。

1つ目は花畑。区内6つ目の大学として、文教大学「東京あだちキャンパス」が令和3年4月に開設された。

2つ目は江北。ついに足立区初の大学病院として、令和4年1月に「東京女子医科大学附属足立医療センター」が開院した。

3つ目は竹の塚。令和4年3月に悲願の「踏切のない、安全なまち竹の塚」が現実のものとなる。

さらに今、綾瀬・北綾瀬のプロジェクトが進行中だ。あだちの進化はとまらない。



# 区民が誇れるまちへ

～ここあだちから、新たな一歩をふみだそう～

足立というまちには「底ぢから」がある。

様々な課題や困難も、住民や企業、行政がそれぞれの力を出し合い、乗り越えてきた。誰一人取り残さない新しい日常をめざし、共にふみだすためにつくったキャッチフレーズ「あだちから」には、「足立のパワー(力)」と「足立から(from足立)」の2つの意味を込めた。令和4年度は区制90周年を迎える節目の年。区制100周年の未来に向かって、ここ足立から新たな物語がはじまる。



足立区を舞台に大暴れしてんだから...

例年、採用説明会の会場で、「特別区が国や都と違うのは、現場を持っている」と話してきましたが、コロナ禍の今ほどそのことを痛烈に感じたことはありません。

特にワクチン接種に関しては、会場や打ち手を準備して「さあ、やるぞー」と意気込んだものの、肝心のワクチン供給が止まってしまうという最悪の事態。それでも地域の皆様からの苦情や不満の声を正面から受け止め、安心につなげるのが私たちの使命です。

「現場を持つ」ということは、単に頭で考えるだけではなく、五感のすべて時には第八感もフル活用して、対応に当たることを意味します。ピリピリするような緊張感がありますが、それを乗り越えた後の達成感こそ、何物にも代えがたい私たちの宝物です。

足立区には、入区当初から力を試せる現場がたくさん揃っています。「手ごたえのある人生を歩みたい」と思うあなたに、最適な職場。それが足立区です。

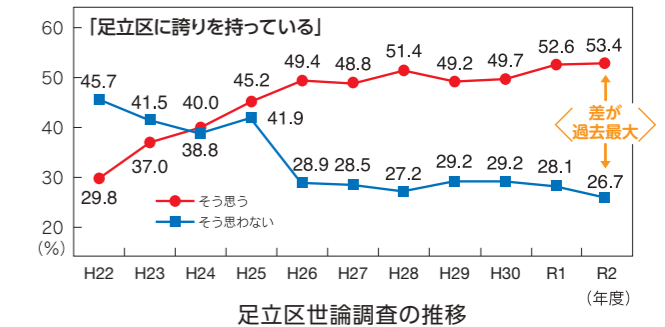
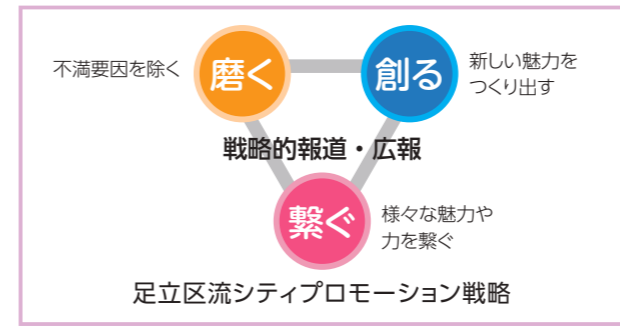
足立区長(平成19年6月就任) 近藤やよい

# 足立区のイメージを壊せ! 区民が誇れるまちを創る。

足立区が毎年行っている世論調査に「足立区に対する気持ち」を問う項目がある。平成22年度に23区で初めてイメージアップの専任組織・シティプロモーション課を設置した当時、3割にも満たなかった、まちを「誇りに思う」気持ち。約10年の歳月をかけて、治安改善などボトルネック的課題(※1)解決による「マイナスイメージの払拭」と、大学誘致やエリアデザイン(P8「100年に1度の変化のとき。」参照)など、新たな魅力を効果的に創り上げる「プラスイメージの創出」を同時に進めてきた。その成果が表れはじめ、今では、およそ2人に1人の区民が「足立区を誇りに思う」までに変化した。

この足立区独自の取り組みは、令和3年度に全国で初めて開催された「シティプロモーションアワード」(※2)で金賞を受賞するなど、区内外から注目されている。

※1 「治安・学力・健康・貧困の連鎖」の4つの課題(克服しない限り区内外から正当な評価が得られない根本的課題)  
 ※2 地域に関わる人々の幸せにつながる、的確なシティプロモーションを行っている地方自治体等を表彰するアワード



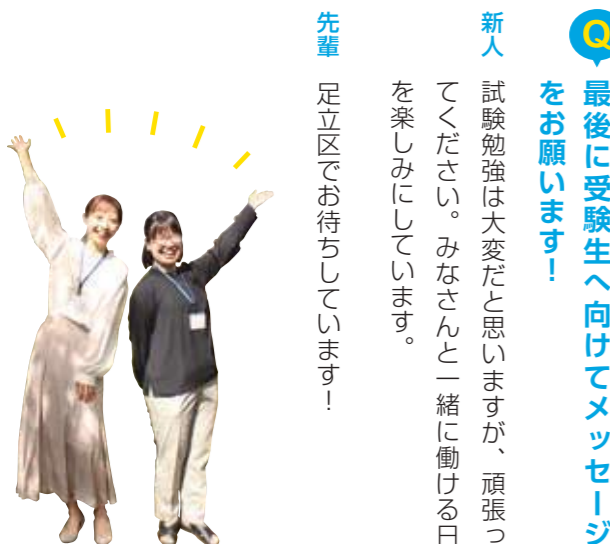
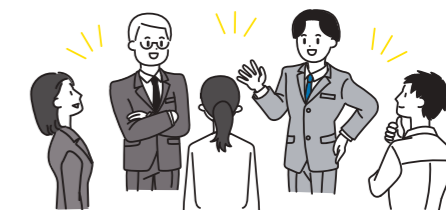
足立区シティプロモーション課著「住民の心をつかむ 自治体チラシ 仰天! ビフォーアフター」(学陽書房/2021年発行)

# 新人職員 × 育成担当職員の働きぶりを紹介!



## 新任職員育成担当者制度とは

初めて飛び込む世界は不安がつきもの。  
「どんな仕事をするんだろう…」  
「職場に馴染めるかな…」  
そんな気持ちに寄り添うべく、新人職員に対して1年間、育成担当職員がついてサポートする制度が足立区の新任職員育成担当者制度です!  
新任職員に身近な先輩職員が課長・係長と連携しながら職場指導の推進役の一人として、新人職員の育成に当たります。



**Q** それはなぜですか?  
**先輩** 自分で考えて動くことのできる職員になってほしいからです。どこの職場でも、業務に対応していくためには、必ず、自分自身で考える力が必要です。でも、新人一人に対応して何かあった時には、いつでもフォローできるよう、離れたところから見守ったり、話の内容に耳を傾けるようにしています。新人職員一人では対応が難しそうな時は、一緒に対応します!

**Q** 育成担当として意識していることはありますか?  
**先輩** 新人職員だけで対応できそうな時は、私は後ろにさがって新人職員に対応してもらおうにしています。

**先輩** 最初は電話対応や接客に不安を感じるのが当然だと思います。特に初めて社会人になる方は不安が大きいと思いますが、焦らずに自分のペースを進めていってもらえればいいのです。入区して最初の1年間は育成担当職員がつきますし、それ以降も先輩職員が気軽に相談に乗ってくれますよ!

**Q** 苦手だと感じる業務はありましたか?  
**新人** 電話対応が苦手でした。はじめは出ることも掛けることも緊張してしまい、なかなかうまくできませんでしたが、先輩にその場でフォローしていただいたり、アドバイスをもらう内にだんだんと自信がつかってきました。最近は、苦手意識も薄れ、スムーズに対応できるようになってきました!

**Q** 現在担当している業務の内容を教えてください!  
**新人** 住所変更やマイナンバーカードの更新手続きを担当しています。先輩と私は、窓口や電話で区民の皆様から直接お話を伺って手続きを進めたり、システムに住所変更のデータを反映させたりしています。

先輩のサポートにより、業務に対する苦手意識を払拭!



### 新人職員

区民部戸籍住民課  
窓口サービス係  
令和3年度採用



### 育成担当職員

区民部戸籍住民課  
窓口サービス係  
平成28年度採用

# 本庁舎で働く先輩の働きぶりを紹介!



## 機械

施設営繕部  
中部地区建設課  
機械設備係  
令和2年度採用



改修工事で使いやすくリニューアルされたトイレ

## 利用者の声がモチベーションにつながる

小・中学校や区保有の施設の給排水設備、衛生設備、空調設備に関する工事の設計や監督を担当しています。学校のトイレの改修工事を担当した際、思うように工事が進まず、とても苦労しましたが、係長をはじめ周りの先輩方から様々なアドバイスを頂き、工事を終えることが出来ました。工事終了後は学校に通う生徒や教員の方々から「トイレが綺麗になってとても使いやすい」といったお声を頂き、とても嬉しかったのを覚えています。

自分が携わった工事がどのように区民の皆様の役に立っているかを自分自身の目で確認できるところや、設計から工事の監督と様々な仕事に携われることが、地方自治体で機械職として勤務することの魅力です。

## 土木

都市建設部  
市街地整備室長付  
密集地域整備課  
東部地域整備係  
令和3年度採用



区内の中学校で行われた「まちの防災」討議の様子

## 区民の皆様の命と生活を守る

「災害に強いまち」を目指し、老朽化した燃えやすい建物の建替や除去の促進、緊急車両の通行や円滑な消火・救援・避難を行うための道路の拡幅整備を進めています。地区計画の内容の説明やまちづくりに関する勉強会の運営など、区民の皆様と関わる機会も多い職場です。区立中学校の授業の一環として行われた「まちの防災」についての討議に参加した際には、中学生という若い世代の目線から新たな課題に気が付くことができました。

課題と向き合い、様々な意見を取り入れながら行うまちづくりは、区民の皆様の命や生活を守ることにつながります。そのことに誇りを持ち、業務を通して知識を深めながらまちづくりに取り組んでいます。

## 事務

地域のちから推進部  
生涯学習支援室長付  
スポーツ振興課  
振興係  
令和3年度採用



「パークで筋トレ」の様子



## 事業成功の秘訣は職員間の意見交換

スポーツイベント等の事業を通して、誰もが運動・スポーツ活動を気軽に楽しみ継続できる環境の整備に取り組んでいます。運動する機会のない方に対して「どうしたら参加してもらえるか」「どのような特典なら喜んでもらえるか」など事業を盛り上げるために職場内で積極的に意見交換を行っています。高齢者を対象とした「パークで筋トレ」の運営に従事した際には、参加者の方から「また来ます」と声をかけていただき、とても嬉しかったです。現在は、先輩職員の担当するイベントに従事し、業務に対する姿勢や進め方を学んでいます。

多岐に渡る業務に丁寧に対応できる臨機応変さを身につけて、どんな業務も楽しんで行える職員を目指して奮闘中です!

## 中央館

## 足立区役所 本庁舎

## 北館

屋上	エコガーデン
4階	
3階	
2階	
1階	北館案内 INFORMATION ATMコーナー
B1階	食堂
B2階	

8階	
7階	
6階	
5階	
4階	
3階	
2階	庁舎ホール
1階	中央館総合案内 INFORMATION 区民ロビー アトリウム
B1階	
B2階	
B3階	

## 南館

14階	展望レストラン
13階	
12階	
11階	
10階	
9階	
8階	
7階	
6階	
5階	
4階	
3階	
2階	
1階	南館案内 INFORMATION
B1階	
B2階	
B3階	

## 事務

衛生部  
こころとからだの健康づくり課  
健康づくり係  
令和元年度採用



あだちポスターチャレンジ2位受賞  
糖尿病月間ポスター



## 職員の思いが業務として形になる

主に糖尿病対策を担当しています。若者に「糖尿病」と言うと「自分には関係ない」と思われてしまうことが課題です。入区2年目の秋に若者を対象とした糖尿病月間のポスターを作成した際は、糖尿病という重いテーマを明るく身近に感じてもらえるよう、表現の仕方を試行錯誤しました。その結果、区民の皆様や職員からも褒めの言葉をいただき、「あだちポスターチャレンジ」では2位を受賞することができました。

当課では、ほかに、飲食店と連携したイベントの実施や地域のお祭りへの出展など、プロモーション要素の強い業務を多く行っています。そういった企画を自分たちで考え、提案し、業務として形にしていくことにやりがいを感じています。

# 本庁舎以外の機関で働く先輩の働きぶりを紹介!

## 江北保健センター 保健師

衛生部足立保健所  
江北保健センター  
地域保健係  
令和元年度採用



担当地区の家庭を訪問し相談を受ける

### 区民の皆様へ寄り添った健康支援を

区内5カ所にある保健センターでは、乳幼児から高齢者までの区民の皆様の健康増進のための支援をしています。赤ちゃん訪問・乳幼児健診などの「母子保健」、障がい者支援に関する手続き・精神保健相談などの「精神保健」、健康づくり健診・生活習慣病予防などの「成人保健」といった業務を行い、幅広い世代の方々と関わっています。また、保健師はそれぞれ地区を担当し、電話相談や家庭訪問等を通じて、個々の健康課題の解消に努めています。

徐々に区民の皆様からご相談を受ける機会が増えてきており、信頼していただけているのかなと嬉しく感じています。区民の皆様へ寄り添った、頼りになる保健師を目指します!



利用者が体を動かすための設備

## 障がい福祉センターあしすと 福祉

福祉部  
障がい福祉推進室長付  
障がい福祉センター  
生活体験係  
令和2年度採用



### 誰もが本来の自分を発揮できる社会へ

あしすととは、障がいのある方の総合的な相談や就労支援、生活介護などを行っている施設です。その中で、知的障がいのある方や重度の心身障がいのある方を対象とした生活介護を担当しています。生活介護を行う上では、利用者様の立場に立つて物事を考えることが重要です。障がいのある方が本来の自分の力を発揮し、安心して豊かな生活ができるよう、他の職員とも相談しながら、その時その方に最適なと思われる関わり方を考え、実践していきます。そうした支援をきっかけに利用者様の笑顔が増えていくのを見ると嬉しくなり、モチベーションにつながっています。

日々勉強の毎日ですが、先輩に助けられながら、楽しく働いています!

## 江南区民事務所 事務

地域のちから推進部  
地域調整課  
江南区民事務所  
令和2年度採用



近隣の小学校の児童が作成した凧を掲示中



### 区民事務所は「ちいさな区役所」

区内16カ所にある区民事務所は、いわば「ちいさな区役所」とも言える職場です。住民票の発行や電子証明の発行、国民健康保険や国民年金の資格取得手続きなどの窓口業務をはじめ、地域の青少年対策事業の支援やイベントにも携わっています。接客や電話対応に難しさを感じる反面、感謝の言葉を直接いただけることも多々あります。区民の皆様との距離が近い職場ならではの魅力だと感じています。

江南区民事務所は平成30年に立て直された新しい施設です。住区センターを併設しており、子どもたちが遊びに来る方は、にぎやかな雰囲気に包まれます。



## 中央図書館 事務

地域のちから推進部  
生涯学習支援室長付  
中央図書館  
読書活動推進係  
平成25年度採用



約11万冊の蔵書数を誇る児童コーナー



### 本を通じて見る様々な世界

子どもの読書推進を目指し、中高生向けの図書情報誌の制作、乳幼児向けに絵本をプレゼントする「あだちはじめてえほん事業」や読み語りのイベントを実施しています。他にも、季節によって特集を組むなど、来館される方が楽しんで利用できるように趣向を凝らしています。区役所内の職員だけでなく、区民の皆様をはじめ、民間企業や出版社と関わることも多く、本を通じて様々な世界が垣間見えるのが図書館勤務の魅力です。

中央図書館は、学びピア21(足立区生涯学習総合施設)の1階から3階にあります。約11万冊の児童図書や空間を広く使った児童コーナーが自慢の図書館です。総蔵書数は約62万冊で、23区の区立図書館の中でも最大級です!



# 足立の産業



## 都市農業のチャレンジ

古くから農業が盛んで、現在も農地面積23区中3位の足立区。特産の小松菜や枝豆などのほか、さまざまな野菜を栽培し、新しい都市農業にチャレンジしています。

中でも学校との連携はユニーク。おいしい給食日本一を目指し、各方面から注目を集める足立区の給食に、足立産の野菜を取り入れたり、小・中学生の職場体験や収穫体験を受け入れ、子どもたちに地域の農業や豊かな食を伝える農家もあります。

また、区内小学校では、農家から栽培のアドバイスを受け、江戸東京野菜「千住ネギ」の栽培授業を行い、採取した種を下級生に引継ぎ、命の大切さを学んでいます。



小学校にも出向き食育を行う、小松菜農家の宇佐見さん



## ものづくりシーンが面白い！

足立区は、2,000を超える町工場がある、東京屈指のものづくりのまち。皮革、金属、プラスチックから縫製、印刷まで、多様な工場の、熟練の職人たちが技術を支えています。その中から、技術力に優れ、未来へのビジョンを持つ企業を認定するのが「足立ブランド」。

近年は、その若手で作る「あだちブランドYouth」が、厳しい時代をアイデアとつながりで乗り切ろうと、さまざまなユニークなグッズを生み出しています。

「あだちブランドYouth」から生まれたグッズ



(株)しまや出版  
ほめじょーす  
東京未来大学学生と共同開発した人気のカードゲーム



(株)安心堂  
沿線クラス  
区内の鉄道路線図が描かれたグラス



## 輝くお店が元気なまちをつくる

にぎやかな商店街があるまちとしてメディアで取り上げられることも多い足立区。がんばるお店や地域で愛されているお店をもっと知ってもらいたい！そんな想いで魅力発信事業の「あだちの輝くお店セレクション」が始まりました。第5回の「パンがおいしいお店」には、区民の皆さんから3,000を超える推薦と店舗への温かい応援メッセージが寄せられ、足立区の魅力をまた1つ再発見するきっかけになりました。輝くお店が増えることで、まちが元気になる。そんなプラスの循環を作り出したいと、職員は日々、まちを駆けまわっています。



令和3年度の取り組み  
あだちの輝くお店セレクション



## 創業するなら「足立区」！

足立区の創業支援は、本当にきめ細やかです。主婦だった私は、起業セミナーからスタートし、創業融資、各種助成金、経営支援の相談窓口、全てフル活用させて頂いています。2018年には創業プランコンテストの最優秀賞も頂いて、なんの肩書きもない弊社のブランディングとしても、非常に助かりました。セミナーで出会った起業仲間も、創業支援施設の「かがやき」に入居し、その後も月1回の面談や経営の悩みが相談でき、最高の環境で成長していきました。また、足立区は、北千住というハブとなる駅もあり、実は都心や羽田空港へのアクセスも抜群。かつ物件も手頃な価格で、創業には最適の街なのです。その上、行政側の熱い思いのこもった支援があります。誰もが安心して創業できる、そんな地域だと思います！



株式会社 立命  
代表取締役 眞野玲子さん談



創業支援施設「かがやき」

# 足立のシンボル

## 区のシンボルマーク



足立区のAを元に、都市・自然・人間の調和を、水と緑のカラーで未来への飛躍を表現しています。  
(平成3年制定)

## 区の紋章



「足立」の足の字を図案化したものです。  
(昭和33年制定)

## 区の木



さくら

## 区の花



チューリップ

## 友好都市



新潟県 魚沼市  
長野県 山ノ内町  
栃木県 鹿沼市

## 姉妹都市



ベルモント市  
(オーストラリア)

## あし 葦立ち？



早朝の荒川河川敷

現在の足立区が位置する場所は、かつて海辺に接する低湿地帯でした。長らく湿潤だった土地に葦がたくさん生えていたところから「葦立ち」と呼ばれ「足立」になったという説があります。

1594年(文禄3年)、隅田川に最初の橋として千住大橋が架かると、以降、多くの人たちが千住を行き交うようになります。千住は日光と江戸を結ぶ日光道中の初宿「千住宿」として、多くの旅人でにぎわいました。

1689年(元禄2年)、松尾芭蕉は「行春や鳥なき魚の目はなみだ」という句を詠み、千住宿から「おくのほそ道」へと旅立ちました。

江戸時代には、開発が進んでいた区西部に加

え、湿地だった東部にも新たに人々が住み始め、耕地の開墾が進みました。その結果、新田と呼ばれる村々が次々に誕生し、明治時代を迎える頃には、足立区の大部分は米や野菜をつくる農村地帯となりました。

大正時代になると数多くの工場や住宅ができ始め、人口が急増。1874年(明治7年)には約3万人だった人口は、1930年(昭和5年)には約12万7千人に達しました。

足立区の名称は1932年(昭和7年)、旧東京市に編入された際に誕生。1947年(昭和22年)に東京23区のひとつとなり、2022年(令和4年)には区制90周年を迎えます。

# 足立が一番

## 公園面積

緑が多く自然あふれる足立区。足立区立の都市公園面積は2,241,601㎡、その広さは23区第1位です。  
※令和3年4月1日現在



オニやタコなどおもしろいモニュメントの公園も多い

## 区立小中学校

足立区立の小中学校数は69校、中学校数は35校。合計104校(※)で区立学校としては23区で最も多い数です。小中学校が連携して、子どもたちが健やかに育つ環境づくりに取り組んでいます。  
※令和3年4月1日現在



お兄さんお姉さんから学ぶ小学生たち

## 穴場な街

SUUMO(スーモ)が発表する「住みやすい街ランキング 関東版」の「穴場だと思える街ランキング」1位に2015年から7年連続(※)で北千住が選ばれています。  
※2018年調査より調査方法を一部変更



一歩路地に入ると洒落たお店があるのも千住の魅力

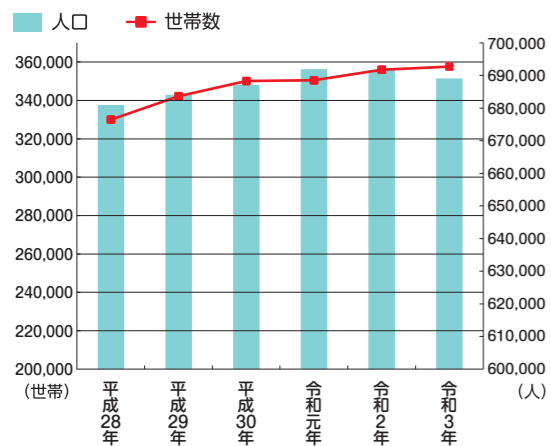
# Basic Data

つくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーといった新線の開通や、西新井地区、新田地区や千住大橋地区などの拠点が再開発されたことに伴い、若年世代の流入が進んでいます。

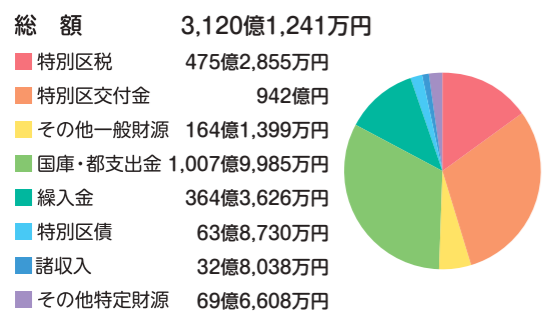
- 足立区の世帯数** 359,985世帯 (令和3年11月1日現在)
- 足立区の人口** 689,861人 (令和3年11月1日現在) **23区中第5位**
- 足立区の面積** 53.25 km<sup>2</sup> (令和3年11月1日現在) **23区中第3位**

## 世帯及び人口 (各年11月1日現在)

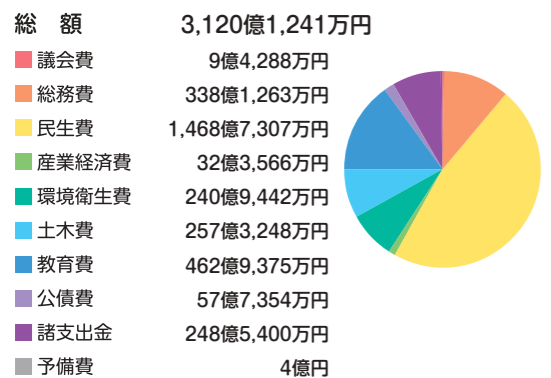
鉄道網の発達や大規模集合住宅の開発、大学の誘致などが進んだことにより、他自治体から足立区に移り住む人が増え、人口はこの5年間で約8,600人増加しました。



## 令和3年度当初予算(歳入)



## 令和3年度当初予算(歳出)



※歳入・歳出については、表示単位未満を四捨五入し、端数調整をしていないため、合計などが一致しない場合があります

# 足立5大イベント

## ■ 舎人公園 千本桜まつり

約1,000本の桜の下、物産展はじめ、たくさんのイベントが行われます。

- 開催日：4月上旬
- 開催場所：都立舎人公園



## ■ しょうぶまつり & 世界の食広場

約140品種8,100株のハナショウブを楽しめます。都立東綾瀬公園(ハト広場会場)では食イベントも。

- 開催日：6月上旬
- 開催場所：しょうぶ沼公園～都立東綾瀬公園(ハト広場)



## ■ 足立の花火

1時間に約13,000発打ち上げられる“超高密度”花火は圧巻です。

- 開催日：7月下旬
- 開催場所：荒川河川敷(東京メトロ千代田線鉄橋～西新井橋間)



## ■ あだち区民まつり (A-Festa)

親子で遊べる体験ゾーン、食べ物屋台や物産展、スタンプラリーなど、あだちの魅力がぎゅっしりつまったイベントです。

- 開催日：10月中旬
- 開催場所：荒川河川敷(虹の広場)



## ■ 光の祭典

竹ノ塚駅を降りるとそこは光の幻想世界。約85万球のLEDが街路樹や公園を彩ります。

- 開催日：12月
- 開催場所：竹ノ塚駅東口～元洲公園



※新型コロナウイルス感染症などの影響により、変更になる場合があります

# 足立のユニーク施設

## 生物園

さまざまな生き物とふれあえる。

- 〒121-0064 足立区保木間2-17-1 TEL.03-3884-5577
- 開園時間/9:30~17:00 (2~10月) 9:30~16:30 (11~1月)

南国の蝶が頭上を飛び交い、アマゾンの大魚ピラルクが泳ぐ水槽もある大温室。里山の自然を再現した昆虫ドーム。約35種類の金魚が泳ぐ大水槽。一年中ホタルを育てる飼育室…。意外性のあるユニークなゾーンがいっぱいの、動物園ならぬ「生物園」は、全国的にも珍しい施設です。

大蛇や大亀、水辺の生き物や小動物など、動物園とは少し違うキュートな主役たちにもたくさん出会えます。水槽の内側から見ることでできる展示や、ふれあい型、体験型など、とにかく生き物が近い! 愛情たっぷりに生き物たちを育てる飼育員に直接質問できるのも魅力です。昆虫、魚類、両生類、は虫類、鳥類、哺乳類など300種以上の生き物を飼育しています。



南国の植物の中で蝶が舞う大温室



ケツメリクガメ



ヒツジ



ニシキヘビと記念撮影



大人気の国内最大級のネット遊具

## ギャラクシティ

遊びながら学べる。学びながら遊べる。

- 〒123-0842 足立区栗原1-3-1 TEL.03-5242-8161
- 時間/9:00~21:30(こども体験エリアは18:00まで)

東武スカイツリーライン西新井駅東口から徒歩3分、こどもたちの成長をバックアップする体験型複合施設です。令和元年度の利用者数は約135万人でした。

高さ7.5mのクライミングウォールや国内最大級のネット遊具など、体と頭をおもいっきり動かして遊べる遊具が勢揃い。工作エリアでは、創造力や表現力を高めるものづくり体験など、こどもたちの好奇心を刺激するプログラムの数々を楽しめます。日本文化に親しむ「ジャパンフェスタ in ADACHI」、様々な仕事を体験する「こどもおしごとらんど」など、人気のイベントも。また、ドームの大きさが23区最大のプラネタリウムがあり、まるで宇宙にいるような感覚を味わえます。

併設の西新井文化ホールでは、メジャー歌手のコンサートや寄席などのほか、区民の音楽活動も盛んに行われています。

